

平成 27 年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立信夫第一小学校長

平成 27 年 4 月 21 日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は 6 年生で、国語と算数と理科の 3 教科の実施となりました。また、理科は 4 年に一度の実施であり、本年度実施いたしました。

国語と算数の 2 教科については主に知識に関する「A 問題」と、主に知識を活用する力に関する「B 問題」を実施しました。

理科は、主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題を一体的に問う問題を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教 科	全国平均 正 答 率	下 回 っ て い る	や や 下 回 っ て い る	ほ ぼ 同 じ	や や 上 回 っ て い る	上 回 っ て い る
国語 A	70.0 %				○	
国語 B	65.4 %	○				
算数 A	75.2 %	○				
算数 B	45.0 %	○				
理 科	60.8 %			○		

【国語 A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同 じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	53.0 %	○				
書くこと	86.0 %		○			
読むこと	55.2 %					○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2 %				○	

【考 察】

- 話を聞く際の聞き方の工夫に課題が見られました。相手の話を聞き取るために観
点をもって聞く活動や自分の考えと比べながら聞く活動など、聞くことの学習の機
会を意図的・計画的に積み重ねていきます。
- 説明するための文章の書き方に課題が見られました。具体的な事例を挙げて書い
た文章と挙げないで書いた文章を読み比べる活動などを通して、相手に分かりやす
い文章の書き方の理解につなげていきます。
- 目的に応じて文章や資料から必要な情報を読み取る力が身に付いています。国語
科だけでなく、社会科や理科の学習等において、図表やグラフなどを読み取る活動
を積み重ねた成果であると思われます。
- 漢字の読みに比べ、漢字の書きの問題に課題が見られました。漢字を国語辞典や
漢字辞典を用いて調べながら、読んだり書いたりする活動を重視し、漢字をより身
近なものとしてとらえることができるような授業を行っていきます。

【国語 B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同 じ	やや上回っている	上回っている
書くこと	61.1 %	○				
読むこと	68.1 %	○				

【考 察】

- 新聞の特徴を理解し、文章全体の構成を考えて割り付けすることができています。
国語科で学習したことを生かし、社会科や総合的な学習の時間において、新聞づく
りの活動を取り入れてきたことの成果であると思われます。
- 文章を読んで、中心となる言葉や文を読み取る問題に課題が見られました。難し
い表現に戸惑い、文と文とのつながりをとらえることに苦労したものと考えられま
す。国語辞典や漢字辞典を活用し言葉の意味をとらえたり、自分なりの考えを表現
したりするなど、読む体験を充実させた授業を行っていきます。

【算数A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	80.1 %	○				
量と測定	71.3 %					○
図 形	64.5 %	○				
数量関係	84.9 %					○

【考 察】

- 小数の減法について、計算の結果の見通しを持つことができます。算数科の授業だけでなく、日常生活の場面においても計算の結果を見通す経験をさせてきた成果だと考えられます。
- 分数の四則計算に課題が見られます。計算練習の機会を継続して設けていくだけでなく、図や数直線を用いて視覚的に理解できるような指導も取り入れていきます。
- 日常生活の中で必要となる時刻や時間を求める力が身に付いています。日常生活において時刻や時間を意識させてきたことや、条件を整理しながら問題場面をとらえる学習を繰り返してきた成果だと考えられます。
- 二等辺三角形を、円の性質と関連付けてとらえる問題に課題が見られました。図形を構成する要素に着目し図形の特徴を理解することができるように、作図などの活動や図形の性質を見付ける活動を重視した授業を行っていきます。

【算数B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	42.4 %	○				
量と測定	41.7 %					○
図 形	45.6 %		○			
数量関係	43.0 %	○				

【考 察】

- およその数を用いた見積りの結果を用いて、目的に応じた判断をすることに課題が見られます。問題場面に沿った概数の処理をしたり概数を用いて計算をしたりするだけでなく、見積りの結果と実際の数との関係を数直線などに表し説明する活動も取り入れていきます。
- 問題場面を理解し、単位量あたりの大きさを用いて、代金を求めることができます。単位量あたりの大きさを用いて考える場を繰り返し設けてきたことの成果と考えられます。
- 二つの図形の面積が等しくなる理由を言葉や数、記号を用いて説明することができます。日々の授業において、説明に必要な条件を明らかにした上で、話し合い活動を行ってきた成果だと考えられます。
- 基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえ、基準量を正しく求めることに課題があります。誤りやすい場面を意図的に取り上げたり、図や数直線を用いて視覚的に数量の関係をとらえさせたりするようにしていきます。

【理 科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

内 容	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
物 質	57.4 %	○				
エネルギー	65.6 %					○
生 命	61.2 %			○		
地 球	57.8 %	○				

【考 察】

- 実験器具の名称を理解していますが、実験の際に正しく使用することに課題が見られます。実験に必要な器具を選択したり選択した理由について話し合ったりする活動も取り入れながら、器具と名称、使う目的を明確にとらえさせていきます。
- 電磁石の強さは、電流の強さや導線の巻き数によって変わることを理解できています。電磁石の強さを比較する実験の際には、導線の巻き数、乾電池の数など、条件が同じことと変えたことを話し合わせながら学習した成果だと考えられます。
- 植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を関係付けて考え、その考えを記述することに課題が見られました。学習を通して獲得した知識を、実際の自然や日常生活に当てはめて考える機会を設けていきます。
- 打ち水の効果について、グラフを分析することに課題が見られました。資料やグラフから必要な情報を読み取り分析する学習や、科学的な言葉を用いながら日常生活に見られる現象を説明する学習を行っていきます。

平成27年度 全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立信夫第一小学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、児童の家庭学習の取組やゲームなどへのかかわりなど家庭生活に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していきたいと思います。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、て、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

1 普段（月～金）、授業以外にどのくらいの時間を学習していますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
小	信夫一小	3.8	7.7	76.9	3.8	7.7	0.0
6	全 国	11.1	14.6	37.0	25.1	9.1	3.0

(単位 %)

【考 察】

- 本校では、「全くしない」がいないことから、授業以外において学習する習慣が身に付いていることが分かります。また、「1時間以上」から「3時間以上」を合わせた割合が、全国を大きく上回り、「学年×10分+10分」の本校の家庭学習の時間の目安をおおむね実践していることが分かります。
- 今後も、「家庭学習の手引き」を基本に、児童の実態に応じた宿題や課題等を工夫していきます。また家庭との連携による「ノーメディア運動」の推進により、学習時間の確保と充実に努めてまいります。

2 自分で計画を立てて勉強をしていますか。

		している	どちらかとい えばしている	あまり していない	全く していない
小	信夫一小	23.1	42.3	34.6	0.0
6	全 国	27.4	35.4	28.1	9.1

(単位 %)

【考 察】

- 本校では、「どちらかといえばしている」の割合が、全国よりやや上回っていま

す。一方、「あまりしていない」の割合も全国よりやや上回っていることから、自分で計画を立てることについては、やや消極的であるといえます。

- 自分で計画を立てて勉強するために、家庭の協力を得ながら、一人一人の状況に応じた家庭学習の時間の確保を図るとともに、適切な学習方法について支援をまいります。

3 普段（月～金）、授業以外に1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか。

		2時間以上	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	10分以上 30分未満	10分未満	全くしない
小	信夫一小	7.7	15.4	38.5	26.9	11.5	0.0
6	全 国	7.5	10.1	20.1	26.5	15.8	19.9

(単位 %)

【考 察】

- 「30分以上」から「2時間以上」を合わせた割合が、全国と比べ非常に高い状況です。また、「全くしない」がないことから、読書の習慣も身に付いていることが分かります。
- 今年度、学校図書館がリニューアルされるとともに学校司書が配置されたことを活かしながら、読書活動を工夫・推進し、読書の習慣化を一層図ってまいります。

4 普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	1時間未満	全くしない
小	信夫一小	0.0	11.5	11.5	15.4	34.6	26.9
6	全 国	9.1	7.9	13.2	24.4	31.6	13.7

(単位 %)

【考 察】

- 「1時間未満」「全くしない」の割合が、全国よりもかなり多く、これまでの「ノーメディア運動」の取組の成果が表れています。
- 一方、「1時間以上」から「4時間以上」を合わせた本校の割合が4割近くあるという状況から、今後も、メディアに長時間接触する弊害について、適宜指導をするとともに、「ノーメディア運動」の推進について家庭との連携を一層図ってまいります。

5 朝食を毎日食べていますか。

		食べている	どちらかといえ ば食べている	あまり食べて いない	食べていない
小	信夫一小	100.0	0.0	0.0	0.0
6	全 国	87.6	8.0	3.4	0.9

(単位 %)

【考 察】

- 「食べている」の割合が、100%と望ましい朝食の摂取状況であり、家庭において朝食をとる習慣が身に付いていることが分かります。
- 今後も、「早寝・早起き・朝ごはん」の望ましい生活リズムの習慣化を奨励するとともに、主食（ごはんやパン）のみにならないバランスの良い朝食を摂ることができるよう、各家庭と連携してまいります。

6 家の人（兄弟姉妹以外）と学校の出来事について話をしますか。

		話している	どちらかといえば話している	あまり話していない	話していない
小	信夫一小	50.0	19.2	30.8	0.0
6	全 国	53.2	26.3	15.9	4.5

(単位 %)

【考 察】

- 「話している」の本校の割合が、全国とほぼ同じ割合であることに対し、「あまり話していない」の割合が、全国の約2倍であるという結果になりました。理由の一つに思春期において親と話したがないという特徴が表れていることも考えられます。
- 学級や学校だより、ホームページにより学校の出来事などを発信しておりますので、それらを話題に積極的に会話を楽しむなど工夫をしていただければ幸いです。

7 家で、学校の授業の復習をしていますか。

		している	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない
小	信夫一小	19.2	50.0	26.9	3.8
6	全 国	23.3	31.2	30.6	14.8

(単位 %)

【考 察】

- 「どちらかといえばしている」の割合が、全国を大きく上回っています。一方、「あまりしていない」「全くしていない」の本校の割合が約3割という状況から、学校の授業の復習についてやや消極的な面が見られ、基本的な学習内容の定着の視点から課題があるようです。
- 家庭における学習時間の確保や効果的な学習方法について、授業の復習に積極的に取り組ませるなどの指導を工夫してまいります。

8 新聞を読んでいますか。

		ほぼ毎日読んでいる	週に1～3回程度読んでいる	月に1～3回程度読んでいる	ほとんどまたは全く読まない
小	信夫一小	3.8	15.4	50.0	30.8
6	全 国	8.7	15.0	21.9	54.3

(単位 %)

【考 察】

- 「月に1～3回程度読んでいる」の割合が、全国に比べ非常に高く、新聞に触れる機会が一定程度ある望ましい傾向といえます。一方で、「ほとんどまたは全く読まない」の割合が3割もあり、読解力や思考力の育成の観点から、今後の課題であるといえます。
- 「新聞を読む子どもほど、読解力や思考力が高い傾向」という報告もあることから、読書時間の工夫とともに、新聞に触れる機会を一層増やす工夫をまいります。

9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小	信夫一小	92.3	7.7	0.0	0.0
6	全 国	81.8	14.4	2.5	1.1

(単位 %)

【考 察】

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合は、本校では100%であり、いじめの認識とともに友だちや自分の命、個性を大切にしようとする道徳心を身に付けていることが分かります。
- 今後も、「いじめは、どの学級にも、どの子どもにも起こりうる。」との認識のもと、家庭との連携を密にしながら、全職員でいじめが起きづらい学校・学級づくりにあたってまいります。

10 将来の夢や目標を持っていますか。

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小	信夫一小	84.6	7.7	7.7	0.0
6	全 国	70.5	16.0	7.5	5.9

(単位 %)

【考 察】

- 「当てはまる」の割合が、全国と比べ高い状況であり、将来の夢や自己の目標を見据えた日々の学習活動等が展開されていると考えられます。
- 今後も、将来の夢や自己の目標の実現のために、家庭や地域と連携し豊かな体験活動をとおして、望ましい職業観等を培うとともに、将来にわたって生きて働く基礎的・基本的な学習内容の定着を図ってまいります。